

## Market &amp;

## マーケット&amp;トレーディング・カンパニー



代表取締役専務、執行役員

カンパニー長 田中隆康

マーケット&トレーディング・カンパニーは、市場性業務をグローバルかつ専門的に担当するカンパニーとして、トレーディング部門、投資銀行部門、バンキング・ALM部門および証券子会社、海外現地法人で構成されています。

当カンパニーでは、引き続きお客さまからの信頼にお応えできるよう、次の二点に軸足を置いた業務運営を進めていきます。

第一は、金融技術力の一層の向上を図り、付加価値の高い商品・サービスの供給基地としての役割期待を担っていくことです。本格化する時価会計・連結決算制度といった外部環境の変化に対し、グループ企業も含めた財務戦略・経営戦略などに関するお客さまのニーズはますます高まっています。昨年度は、法制度改正を展望した本邦初の開発型不動産の証券化、連結決算制度をにらんだ本社ビルの証券化、経営戦略に直結したM&A、バランスシートコントロールを念頭に置いた財務アドバイスなどに積極的に取り組み、数多くの案件を結実させ、お客さまから高い評価をいただくとともに、これら証券・投資銀行業務については当行グループの得意分野としてマーケットからも一流の評価をいただくことができました。当カンパニーでは、高度なトレーディング手法に裏付けられた市場性商品の供給と、トッププレーヤーとしての証券・投資銀行業務のノウハウを活かした多方面にわたる提案力の強化を行い、お客さまに対し引き続き付加価値の高いソリューションを提供していきます。

第二は、常にコンプライアンスを意識した業務運営を行うことです。金融商品に対するお客さまの取引の目的、経験などの「適合性」を総合的に判断し、商品性の説明を適切に実行することで取引の透明性をさらに高め、お客さまの信頼を得ていくための努力を続けていきます。

3行統合については、市場ALM、証券インベストメントバンクの各分野で鋭意準備を進めています。なかでも、統合の第一ステップである10月のみずほ証券設立へ向けては、合併する三つの証券子会社がこれまで培ってきた商品力・販売力を結合し、お客さまに対し付加価値の高いソリューションを提供できる体制作りを進めているところです。

当カンパニーは金融先端分野の専門集団として、マーケットから一流の評価が得られるよう商品・サービスの提供力と価格競争力を一層高め、お客さまからの信頼にお応えしていきます。



## 証券業務について

当行グループの証券関連拠点が連携して、お客さまの高度化・多様化する資金調達・運用ニーズにお応えしていくことが証券戦略の基本であると考えています。中核拠点である第一勧業証券に加え、平成11年10月には勸角証券を子会社化し、ホールセールからリテール、債券業務から株式業務まで証券分野のフルライン化を実現し、グループ全体で幅広くお客さまのニーズにお応えする体制を整えました。

第一勧業証券はみずほフィナンシャルグループの設立にともない、平成12年10月に、富士証券、興銀証券と合併し、みずほ証券となります。お客さまとの圧倒的な取引基盤をベースとして、商品開発力などで統合によるシナジー効果を最大限に発揮しつつ、国内トップクラスの証券・インベストメントバンクをめざしていきます。

一方、勸角証券はみずほフィナンシャルグループのミドル・リテール証券として、商号を10月1日より「みずほインベスターズ証券(株)」へ変更します。みずほ証券と一体的に証券サービスの提供を行っていくとともに、グループ内の個人部門、資産運用・信託部門との連携を強化し、個人投資家のみなさまの資産運用ニーズにお応えしていきます。

### 第一勧業証券

第一勧業証券は、国内市場において社債の引受・販売業務をはじめとする本格的な証券業務へ参入するため、当行100%出資の証券子会社として平成6年11月に開業しました。

お客さまの資金調達ニーズに対しては、海外証券現地法人とも連携して、社債・株式を合わせたトータルファイナンスアドバイスをを行い、最適なメニューを提案しています。

国内市場の社債引受業務では、強力な販売力を背景にトップクラスの実績を有しており、なかでもABS(資産担保証券)の部門においては、発行企業、投資家双方のニーズに基づいた商品設計が高い評価を受けており、先駆者としてABS市場の発展に大きく貢献しています。

平成11年10月には、銀行系証券子会社の業務規制撤廃にともない、IPO業務(新規公開株式の引受業務)をはじめとする株式の引受業務へ参入しましたが、勸角証券との間で株式の引受・販売業務を中心とした業務提携を締結し、第一勧業証券の引き受けた株式を勸角証券で販売するなどの連携体制を構築しています。

お客さまの資金運用ニーズに対しては、第一勧業証券と勸角証券が連携し、グループトータルでお応えしています。第一勧業証券では、ホールセールの債券トレーディング業務を行い、商品供給力、リサーチ力において付加価値の高いサービスを提供しています。

また、平成10年12月に開始した店頭エクイティデリバティブ業務については、専門性の高い人材を外部から採用し、エクイティデリバティブを駆使した商品設計・開発に係わる高度なノウハウの蓄積を行っており、時価会計導入などを背景とした持合株式流動化や保有株式ヘッジなどのお客さまニーズに対して、付加価値の高いソリューションを提供しています。

### 勸角証券

勸角証券では、株式トレーディング業務およびミドル・リテール向けの債券・株式の販売業務を中心に業務を展開しており、お客さまの資金運用ニーズに対して多様な商品を提供しています。特に、個人投資家のみなさまに対しては、国内の55か店の店舗ネットワークを活用し、銀行では取り扱うことのできない幅広い商品と充実したリサーチ情報により、きめ細か

く質の高い資産管理サービスを提供しています。お客様の利便性を高めるため、銀行との共同店舗化を進めるとともに、第一勧業証券ひいてはみずほ証券、海外証券現地法人との連携を一層強化していきます。

## 高度な金融技術を使ったサービスの提供

### デリバティブ業務

キャピタル・マーケット営業グループでは、お客様が保有するさまざまなリスクについて分析を加え、お客様のニーズにお応えするための商品開発や各種リスクヘッジ手法を提案しています。

近年、金利・為替相場など、価格の変動にともなうリスクを回避するため、お客様も積極的にデリバティブ取引を財務戦略に採り入れるようになってきており、当行のリスクヘッジに関する提案は幅広いお客様から高い評価を得ています。

また、今後拡大が予想される信用リスクに対応するクレジットデリバティブ、債権流動化に係わる特殊なスワップなどの新金融商品の研究・開発も行っています。

### 資産の流動化・証券化

お客様が保有する債権の信用力や資産が生み出すキャッシュフローをベースにした「資産の流動化・証券化」と呼ばれる新しいファイナンス手法が注目されています。金銭債権の流動化プログラム「ALLSTAR」においては、平成12年1月公表された金融商品会計に関する実務指針に合致する形で、企業の関係会社の手形をまとめて流動化する手法を平成12年2月に開発しました。

急速に拡大する不動産証券化については、大企業の本社ビル証券化や大手流通企業のショッピングセンターの開発型証券化などを実行し、激変する法制度・会計基準およびお客様のニーズへの確に対応しており、また、法改正を踏まえ、不動産投資信託にも取り組んでいます。さらに、不良債権流動化に関しても当行のリスクや資産コントロールに役立っているのみならず、お客様へのアドバイザー業務としても先進的に取り組んでいます。

### M & A、株式公開アドバイス

お客様のリストラクチャリング、事業ポートフォリオ再構築のニーズが高まるなか、我が国ではM & Aやグループ会社の株式公開がつかない活況を呈しています。また、法制・税制の整備進展にともない、お客様の事業・財務戦略に係わるアドバイザー業務へのニーズはますます高まっています。事業戦略アドバイザーグループは、このような経営戦略上の課題を的確に把握し、高度な専門性を駆使しながら最適なソリューションを提供します。